

金沢学院大附属中が開校

1期生133人 富山など全国から集う

一貫教育で高み目指す

金沢学院大附属中の開校式と第1回入学式は6日、金沢市末町の同校で行われ、1期生133人と保護者、関係者が高校、大学との一貫教育で高みを目指す新中学校のスタートを祝った。



金沢学院大附属中の開校式で、高い目標の達成へ切磋琢磨することを誓った1期生
—金沢市末町の同校

た。石川県内で私立中学が開校するのは38年ぶり。

【27面に関連記事】

開校式では、学校法人金沢学院大学の飛田秀一学園長が開校を宣言し、続く式辞で「無限の可能性を秘める子どもたちの能力を、中学からの一貫教育で最大限に引き出す教育環境を整えたかった」と開校の理念を

説明した。

富山県など全国から集った生徒が特進、総合の両コースで学ぶとともに、専ら「中学清鐘寮」での共同生活で協調性と自主独立の精神を養い、高い目標の達成へ磨き合うことに期待を寄せた。

文部科学相も務めた馳浩知事が「特色ある学校で将

来を考え、世界で大きな役割を果たす卒業生になることを楽しみにしている」、「村山卓金沢市長が「1期生は学校の歴史をつくる使命がある。伸び伸び学んでほしい」と、それぞれ祝辞を贈った。

その後の入学式では、入学生代表の安井響さん（金沢市）が「志をともにする新しい仲間と切磋琢磨し、勉強に、部活動に励む」と宣誓。田邊俊治校長が式辞。学校法人金沢学院大学の秋山稔理事長が告辞を述べ、開校を記念して作られた応援歌「集う我ら」が披露された。

金沢学院大附属中は、6年間の中高一貫教育で東大や国立大医学部などの難関大進学を狙う特進コースと、金沢学院大までの10年間でスポーツや芸術の一流を目指す総合コースがある。

1期生は特進コース61人（2クラス）、総合コース72人（同）。出身地は石川県が99人で、富山、福井、神奈川、大阪など県外が34人となっている。